

農作物病害虫発生現況情報（6月） 水稻編

1 ばか苗病

(1) 6月中旬（6/13～22）の巡回調査（県内148地点）では、3圃場で発生が確認された。発生圃場数は昨年より少なかった（表1）。

表1 本田におけるばか苗発生状況
(参考)

地域	調査圃場数	発生圃場数	(参考)	
			R3発生圃場数	R2発生圃場数
県中	56	1	4	0
県北	26	0	3	0
県南	54	2	5	4
遠野	12	0	1	0
全県	148	3	13	4

2 いもち病

- (1) 基準圃場（北上市成田、無防除）では、発生は確認されていない（6月28日現在、接種日6月23日）。
- (2) 6月上旬の巡回調査では、県南部の1地点において取置き苗での発病が確認された（令和4年6月6日発表 病害虫防除速報No. 6を参照）。
- (3) 6月中旬の巡回調査では、本田での発生は確認されなかった。
- (4) 病害虫防除協議会による病害虫調査（6月27日、県南部）では、すでに数圃場で発生が確認された。

3 イネミズゾウムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田、無防除）では、5月第4半旬から第6半旬にかけて成虫数及び食害度の増加が見られた（図1）。
- (2) 6月中旬の巡回調査（県内148地点）では、発生圃場率は22.3%（平年24.1%）で平年並であった（図2）。
- (3) 地域別では、奥羽、岩手、盛岡、花巻、胆江、一関、二戸地域で食害程度（中以上）が高かった（図3）。

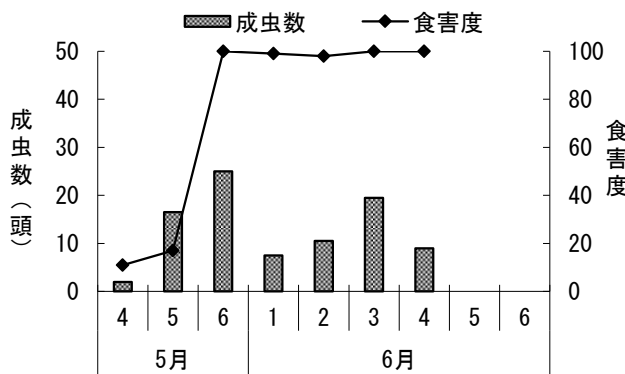


図1 基準圃場におけるイネミズゾウムシ成虫の発生消長と食害度

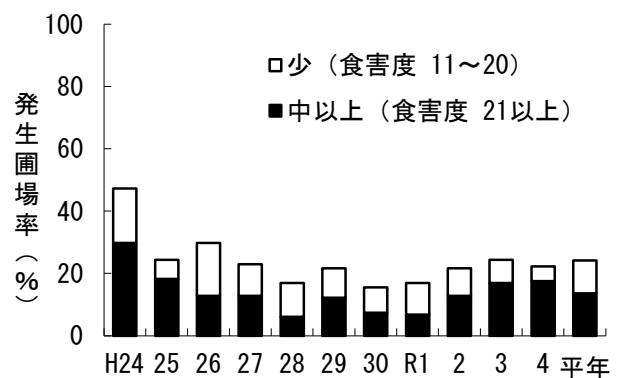


図2 イネミズゾウムシ発生圃場率の年次推移（6月中旬、食害度）

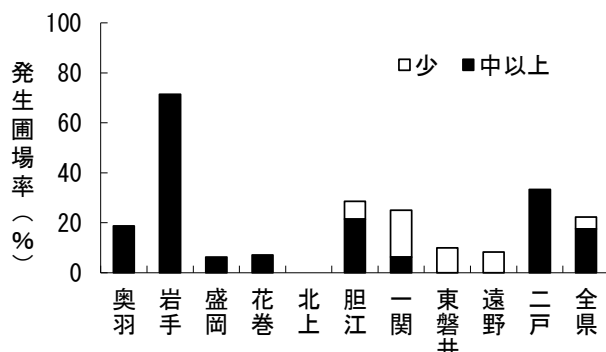


図3 地域別のイネミズゾウムシ発生圃場率（6月中旬、食害度）

4 イネドロオイムシ

(1) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は7.4% (平年3.4%) で平年より高かった (図4)。

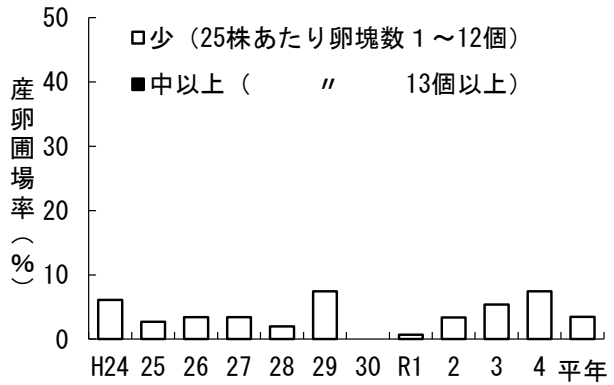


図4 イネドロオイムシ産卵圃場率の年次推移 (6月中旬、程度は25株当たり卵塊数)

5 斑点米カメムシ類

(1) 基準圃場 (北上市成田、イタリアンライグラス) におけるすくい取り調査では、6月第2半旬からアカスジカメムシ成虫の発生が確認された (図5)。

(2) 6月中旬の水田畦畔すくい取り調査 (県内39地点) では、斑点米カメムシ類の発生圃場率は23.1% (平年30.8%) で平年よりやや低かった (図6)。

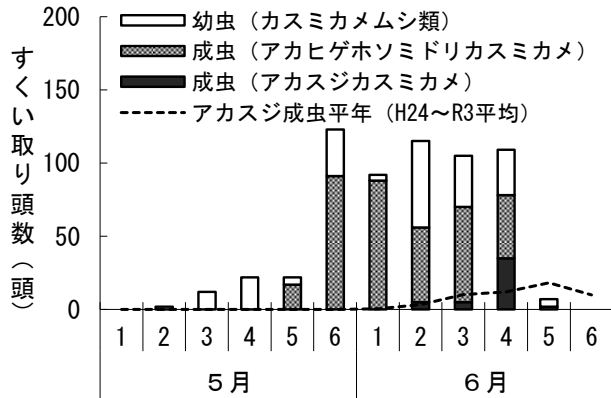


図5 基準圃場 (北上市成田、イタリアンライグラス) における斑点米カメムシ類発消長 (往復20回振)

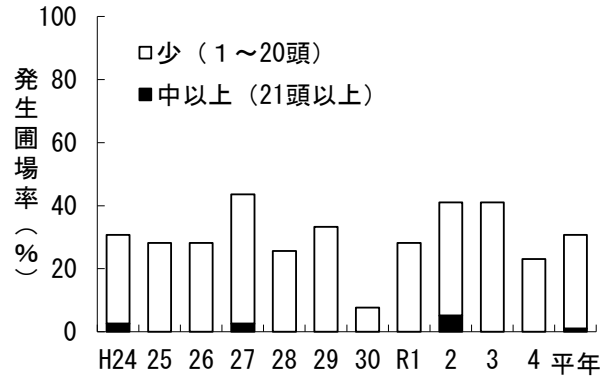


図6 斑点米カメムシ類発生圃場率の年次推移 (水田畦畔、往復20回振)

6 コバネイナゴ

(1) 6月中旬の水田畦畔すくい取り調査 (県内39地点) では、発生圃場率は59.0% (平年52.3%) で平年並であった (図7)。

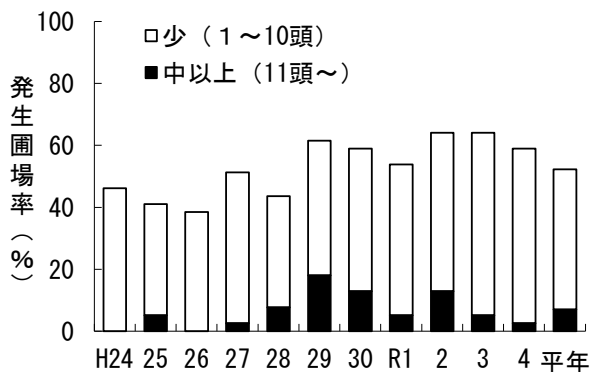


図7 コバネイナゴ発生圃場率の年次推移 (6月中旬、水田畦畔、往復20回振)

7 フタオビコヤガ (イネアオムシ)

(1) 6月中旬の本田すくい取り調査 (県内39地点) では、幼虫の発生は確認されなかった (図8)。

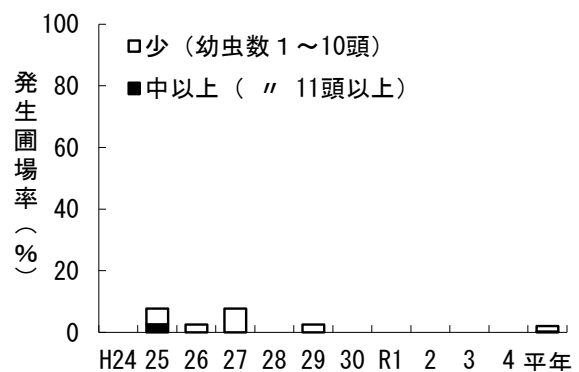


図8 フタオビコヤガ (イネアオムシ) 幼虫発生圃場率の年次推移 (6月中旬、本田、往復20回振)

農作物病害虫発生現況情報（6月）麦 編

1 うどんこ病

(1) 6月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった(図1)。

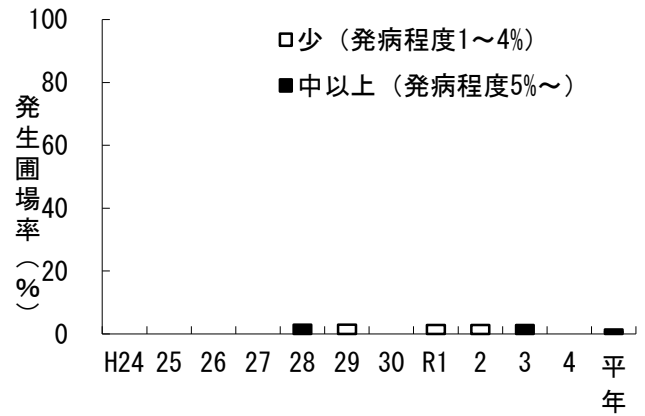


図1 うどんこ病の発生圃場率の年次推移 (6月中旬)

2 赤かび病

(1) 6月中旬の巡回調査では、発生圃場率は20.0% (平年13.4%) で平年よりやや高かった (図2)。

(2) 地域別では、県南部で発生圃場率が高かったが、発病穂率が高い圃場はなかった (表1)。

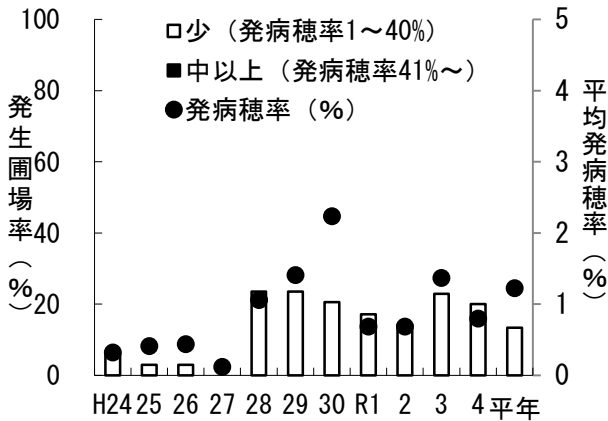


図2 赤かび病の発生圃場率の年次推移 (6月中旬)

表1 地域別の赤かび病発生状況

地域	調査圃場数	発生圃場数	発生圃場率 (%)	平均発病穂率 (%)※
県北	6	0	0.0	-
県中	24	5	20.8	4.0
県南	5	2	40.0	4.0
全県	35	7	20.0	

※発生圃場における平均発病穂率

3 さび病類 (赤さび病)

(1) 6月中旬の巡回調査では、発生圃場率は17.1% (平年19.9%) で平年並だった (図3)。

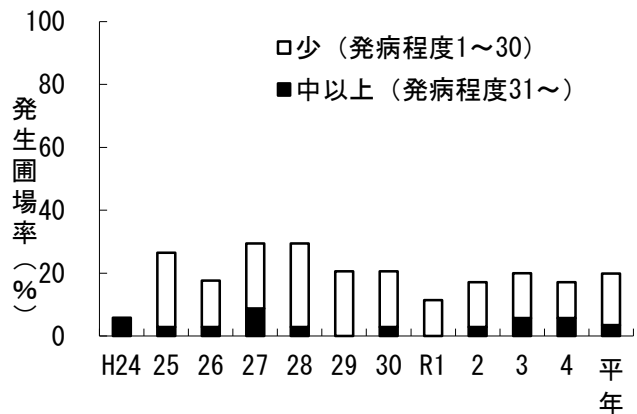


図3 赤さび病の発生圃場率の年次推移 (6月中旬)

農作物病害虫発生現況情報（6月）りんご編

1 モニリア病

(1) 6月前半の巡回調査では、発生が確認されなかった（平成1.0%）（図1）。

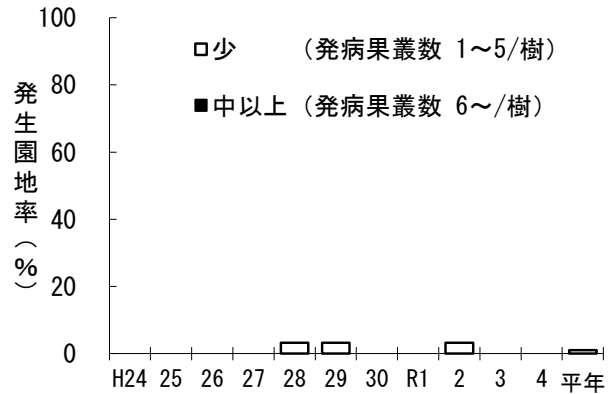


図1 モニリア病の発生園地率の年次推移（6月前半、実ぐされ及び株ぐされ）

2 斑点落葉病

(1) 基準圃場（北上市成田、スターキングデリシャス、無防除）における初発は例年よりやや遅い6月第3半旬となり、発病葉率は6月第6半旬まで平成より低く推移した（図2）。

(2) 6月後半の巡回調査では、「ふじ」の発生園地率は6.5%（平成18.1%）で平成よりやや低かった（図3）。

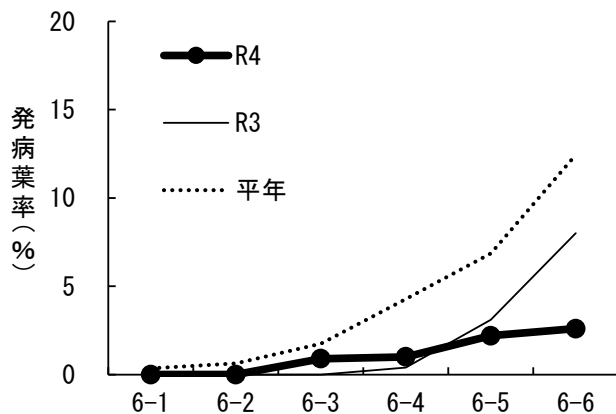


図2 基準圃場における斑点落葉病の発病葉率の推移（半旬別、スターキングデリシャス、新梢葉、無防除）

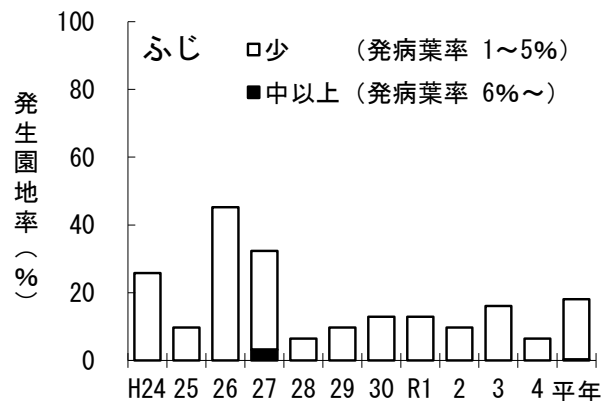


図3 斑点落葉病の発生園地率の年次推移（6月後半、新梢葉、ふじ）

3 黒星病

(1) 6月後半の巡回調査では、新梢葉の発生園地率は9.7%（平成7.1%）で平成よりやや高かったが、発生程度の高い園地は確認されなかった（平成1.3%）（図4）。

(2) 地域別では、県中部で発生が確認された（図5）。

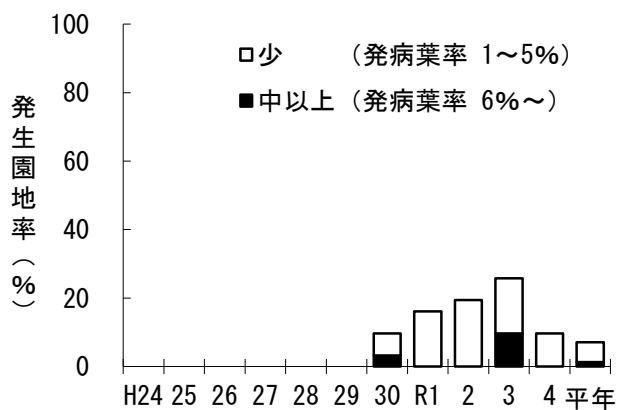


図4 黒星病の年次別発生園地率
(6月後半、新梢葉)

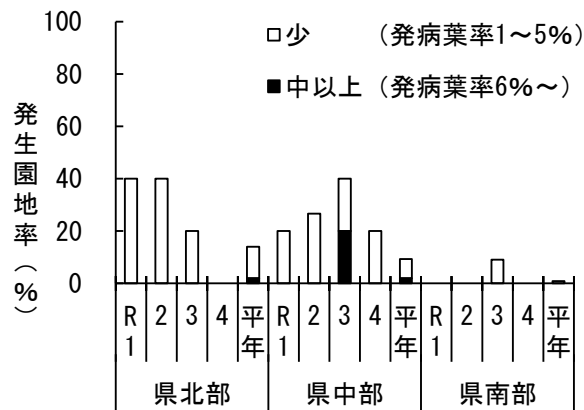


図5 黒星病の地域別発生園地率
(6月後半、新梢葉)

4 赤星病

(1) 6月後半の巡回調査では発生は確認されなかった (平年4.2%) (図6)。

5 うどんこ病

(1) 6月後半の巡回調査では新梢葉の発生園地率は3.2% (平年1.3%) で平年並であった (図7)。

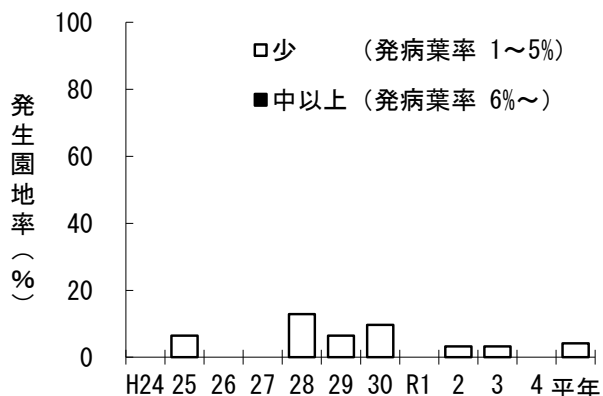


図6 赤星病の発生園地率の年次推移
(6月後半、新梢葉)

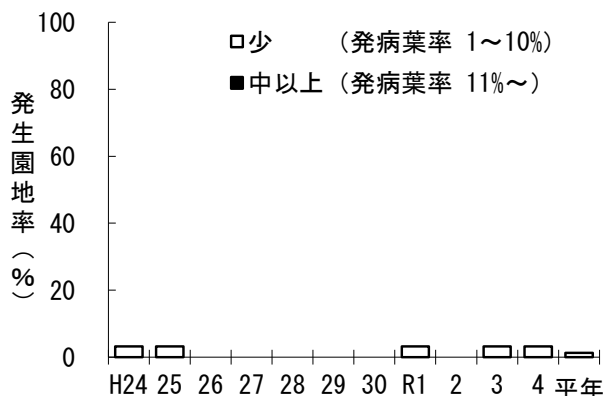


図7 うどんこ病の発生園地率の年次推移
(6月後半、新梢葉)

6 褐斑病

(1) 基準圃場 (北上市成田、ふじ、無防除) における果叢葉での初発は6月第1半旬であり、例年より早かった。6月第6半旬時点の新梢葉での発病葉率は5.7% (平年0.9%) で平年より高かった (図8)。

(2) 6月後半の巡回調査での発生は確認されなかった (平年2.6%) (図9)。

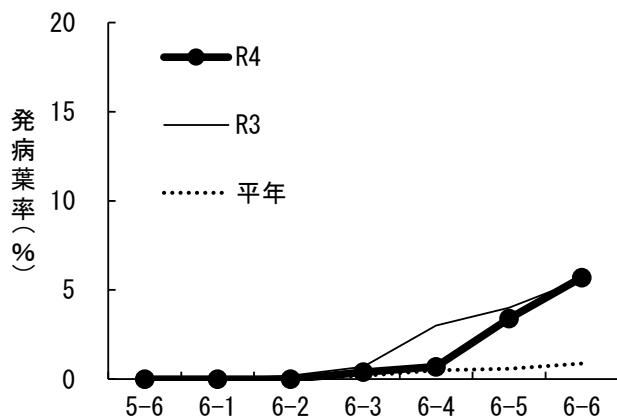


図8 基準圃場における褐斑病の発病葉率の時期別推移 (半旬別、ふじ、新梢葉、無防除)

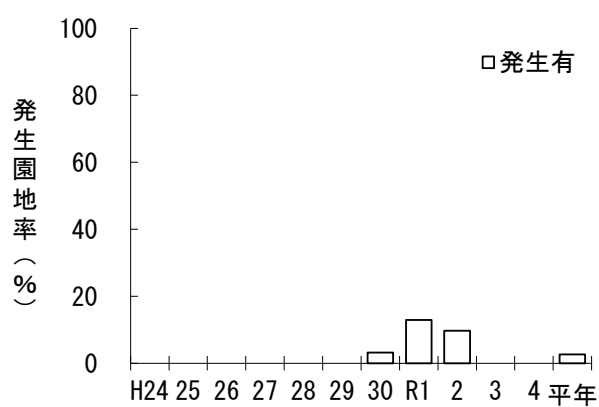


図9 褐斑病の発生園地率の年次推移 (6月後半)

7 キンモンホソガ

- (1) 基準圃場（北上市成田、無防除）における第1世代成虫のフェロモントラップへの誘殺は、6月第1半旬から確認された（図10）。
- (2) 第1世代幼虫の発生園地率は29.0%（平年10.6%）で平年より高く、発生程度中以上の園地は6.5%（平年3.2%）で平年よりやや高かった（図11）。

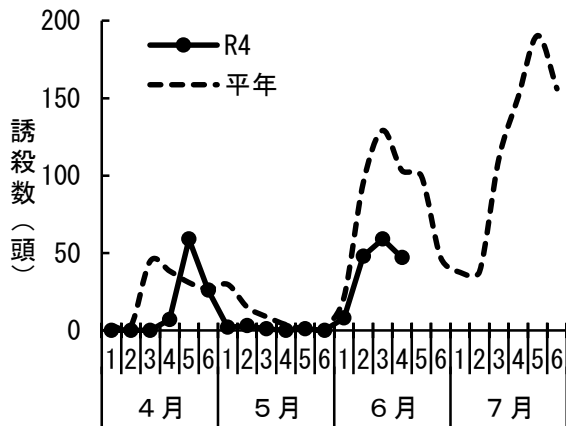


図10 基準圃場におけるキンモンホソガの誘殺状況 (北上市成田、無防除)

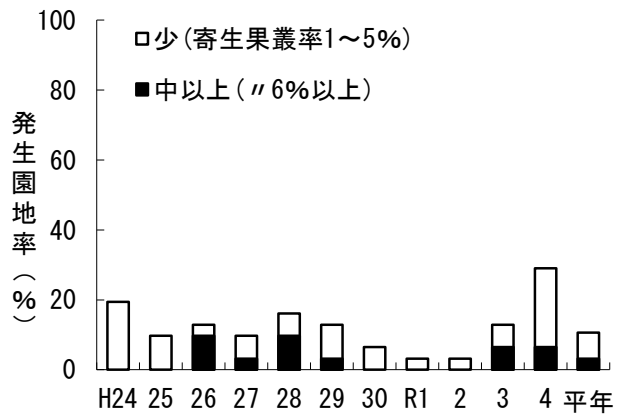


図11 キンモンホソガの発生園地率の年次推移 (6月前半、果叢葉)

8 リンゴハダニ

- (1) 6月後半の巡回調査では、果叢葉の発生園地率は35.5%（平年21.3%）、発生程度中以上の園地は25.8%（平年11.0%）で、ともに平年より高かった（図12）。
- (2) 時期別では、越冬卵の発生園地率は平年より高かったが、その後、平年並となり、6月後半では平年よりやや高くなった（図13）。
- (3) 6月後半の地域別発生状況は、いずれの地域でも、発生程度中以上の園地があった（図14）。

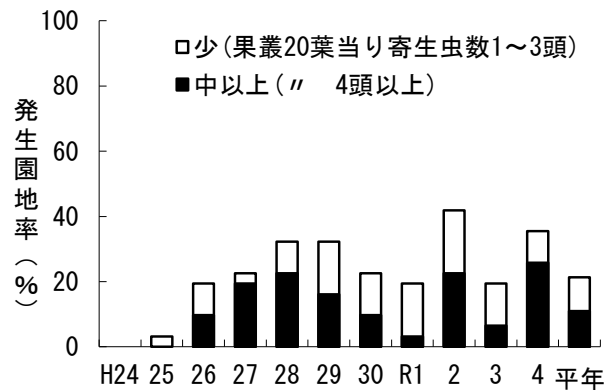


図12 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (6月後半、果叢葉)

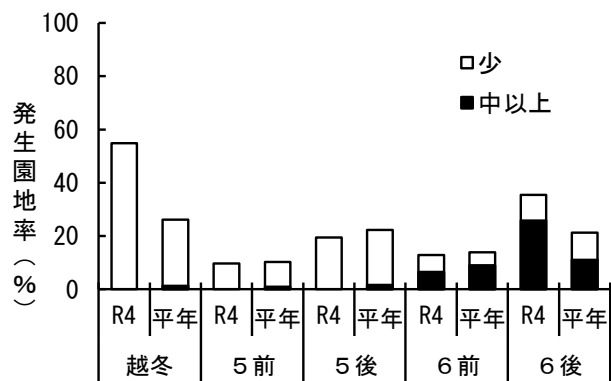


図13 リンゴハダニの時期別発生園地率の推移 (果叢葉)

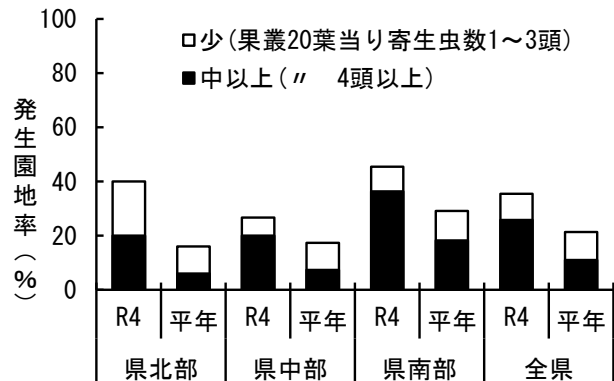


図14 リンゴハダニの地域別発生状況 (6月後半、果叢葉)

9 ナミハダニ

- (1) 6月後半の巡回調査では、果叢葉の発生園地率は38.7%（平年32.6%）で、平年並だった（図15）。
- (2) 時期別では、5月後半以降、平年よりやや低いか平年並に推移している（図16）。
- (3) 6月後半の地域別発生状況は、いずれの地域でも、発生程度中以上の園地があった（図17）。

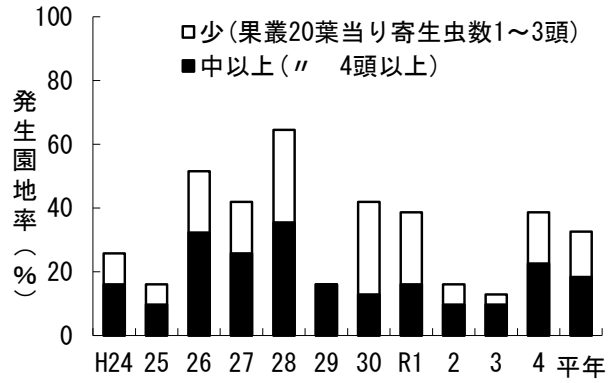


図15 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (6月後半、果叢葉)

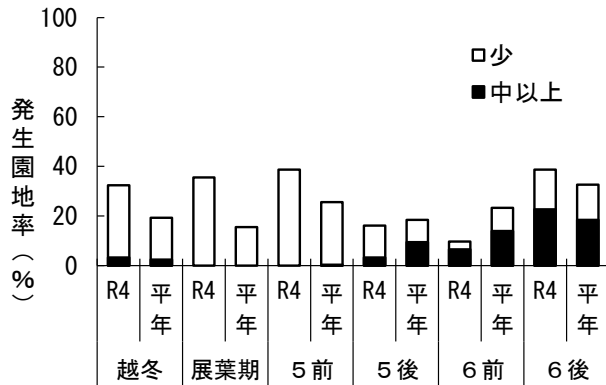


図16 ナミハダニの時期別発生園地率の推移 (果叢葉)

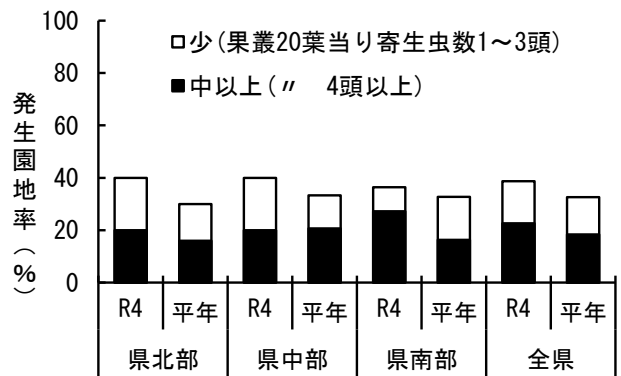


図17 ナミハダニの地域別発生状況 (6月後半、果叢葉)

10 アブラムシ類

- (1) 6月前半の巡回調査における発生園地率は96.8%（平年70.3%）で平年より高く、6月後半は48.4%（平年39.7%）で平年よりやや高かった（図18）。
- (2) 発生が見られた種は、ユキヤナギアブラムシ、リンゴミドリアブラムシであった。

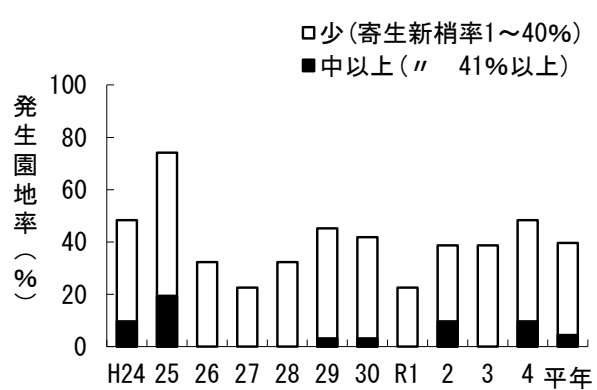
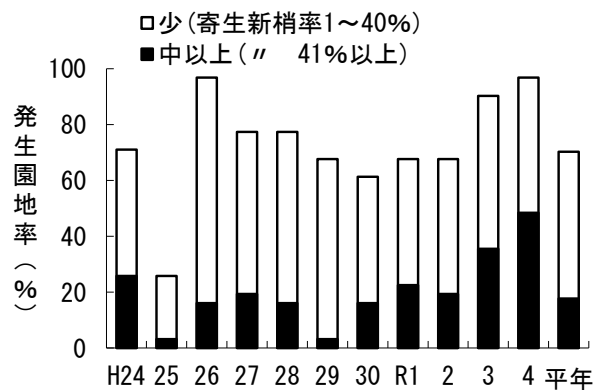


図18 アブラムシ類の発生園地率の年次推移 (左: 6月前半、右: 6月後半)

11 モモチョッキリゾウムシ

- (1) 6月前半の巡回調査では、被害果叢は確認されなかった（図19）。

12 ギンモンハモグリガ

- (1) 6月後半の巡回調査では、被害葉は確認されなかった（図20）。

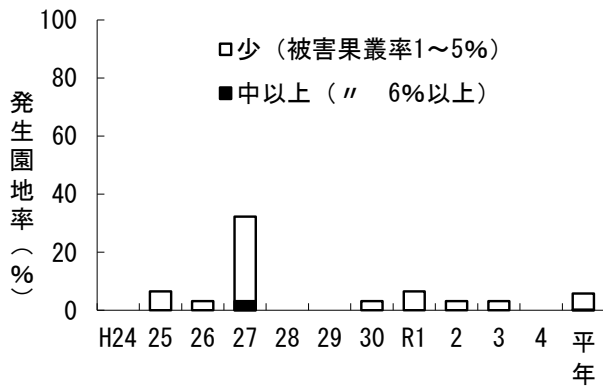


図19 モモチョッキリゾウムシの発生園地率の年次推移（6月前半、被害果）

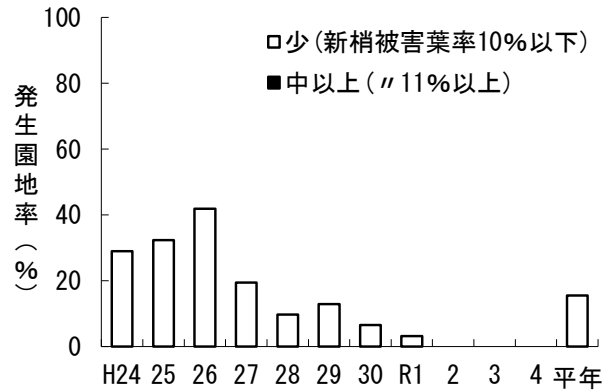


図20 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移（6月後半、被害葉）

13 果樹カメムシ類

- (1) 巡回調査での6月前半の被害果の発生園地率は9.7%（平年8.1%）で平年並、6月後半は32.3%（平年15.2%）で平年より高かった（図21）。
- (2) 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、6月第4半旬時点で、基準圃場では1半旬あたり5頭以上の誘殺が累計1回確認され、現地園地の盛岡市川目では同2回確認され、現地園地の北上市更木では、1半旬あたり誘殺数は5頭未満であった（図22、23）。
- ※5月下旬～6月下旬において、半旬あたり5頭以上誘殺される場合、多発年もしくは激発年となる可能性がある（令和元年度防除技術情報）

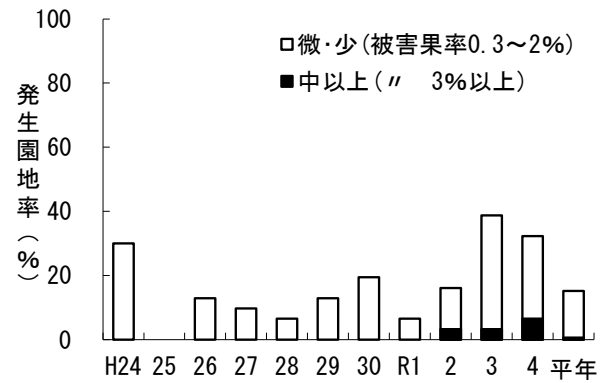
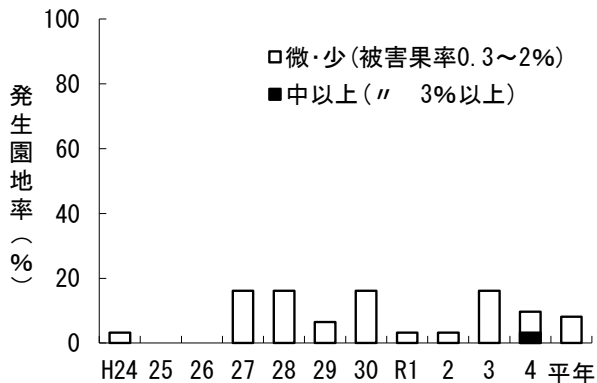


図21 果樹カメムシ類の発生園地率の年次推移（ふじ、被害果、左：6月前半、右：6月後半）

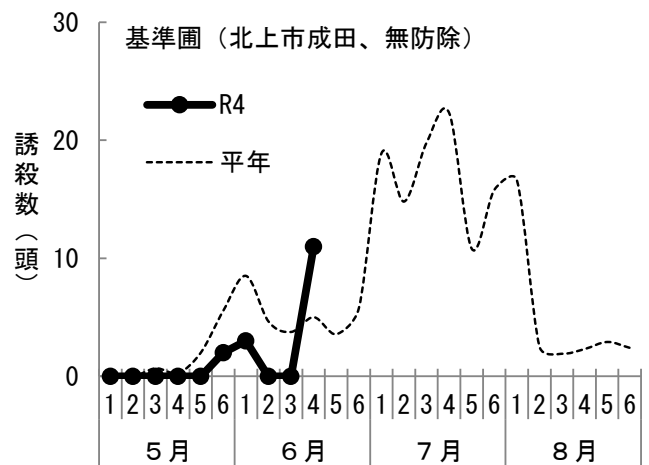
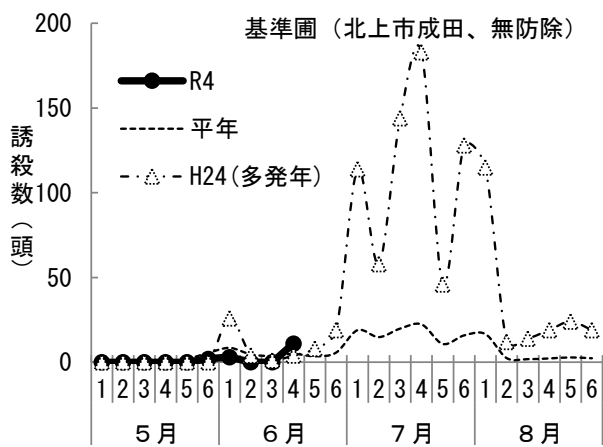


図22 基準圃場におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップでの誘殺状況（北上市成田、無防除）

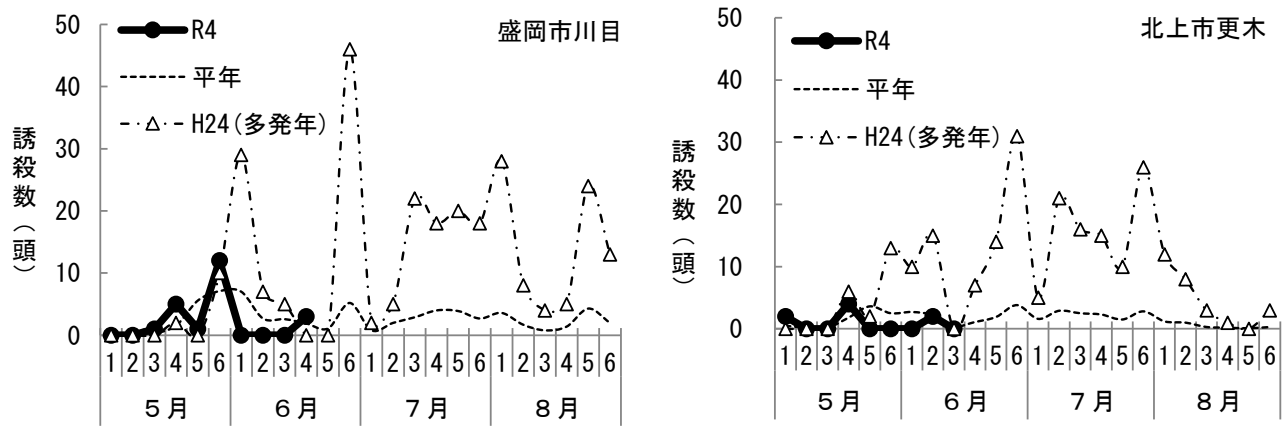


図 23 現地におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップでの誘殺状況
(左：盛岡市川目、右：北上市更木)

農作物病害虫発生現況情報（6月）きゅうり編

1 ベと病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は46.2%（平年3.8%）で、平年より高かった（図1）。

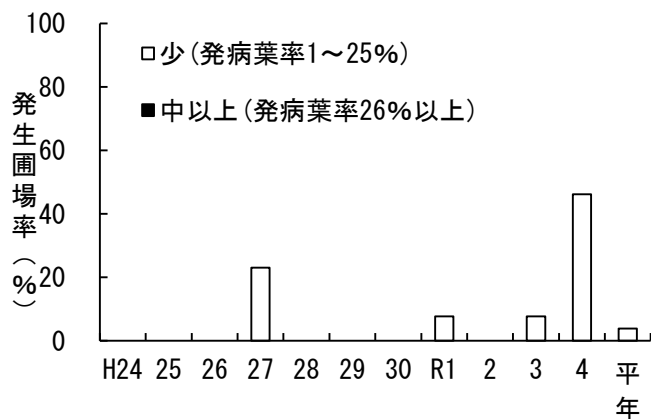


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

2 うどんこ病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年3.9%、図2）。

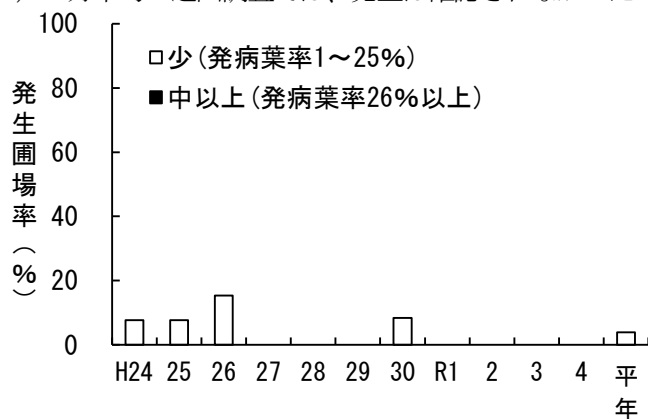


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

3 斑点細菌病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は38.5%（平年38.3%）で、平年並であった（図3）。

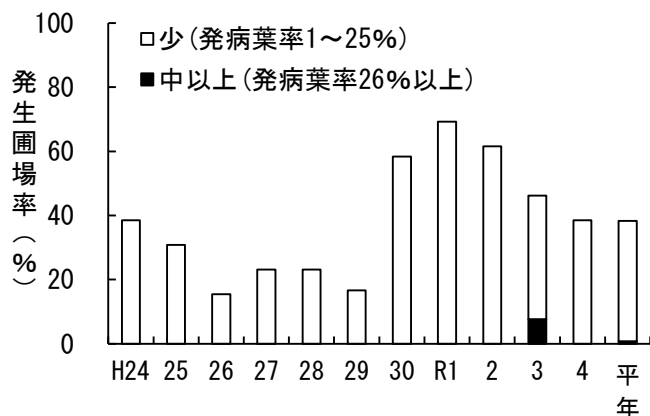


図3 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

4 黒星病

- (1) 6月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年30.2%、図4）。
- (2) 現地では、一部圃場で発生が確認されている。

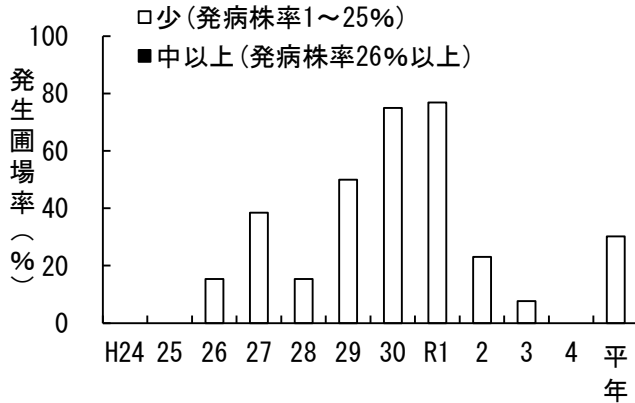


図4 黒星病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

5 ワタアブラムシ

- (1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は15.4%（平年43.8%）で、平年より低かった（図5）。

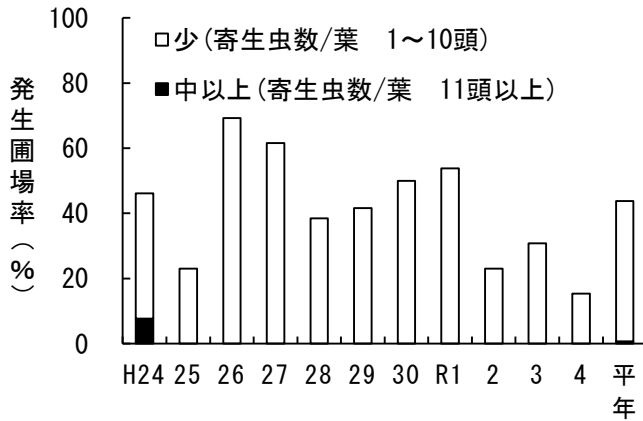


図5 ワタアブラムシの発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

6 ハダニ類

- (1) 6月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年13.1%、図6）。

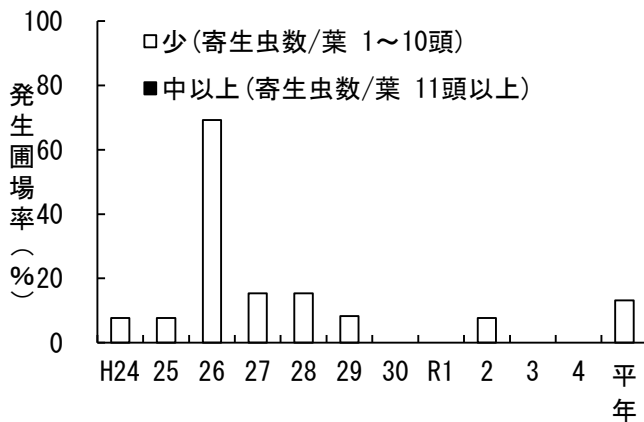


図6 ハダニ類の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

農作物病害虫発生現況情報（6月）キャベツ編

1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、6月第1半旬にピークが見られた（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年並に推移した（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、5月第5半旬にピークが見られた（図3）。
- (4) 6月中旬の巡回調査では、産卵は確認されず（平年21.2%）、幼虫発生圃場率は8.3%（平年30.1%）で、平年より低かった（図4、5）。

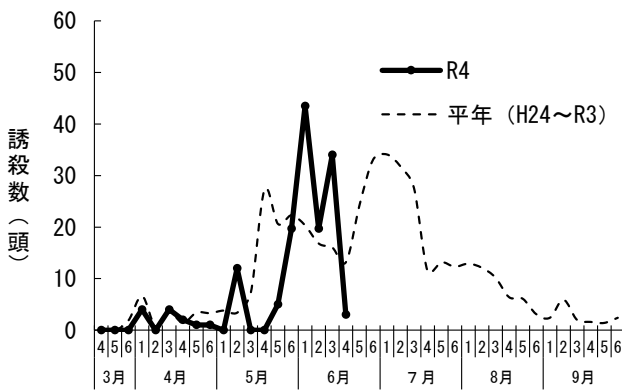


図1 基準圃場（北上市成田）におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

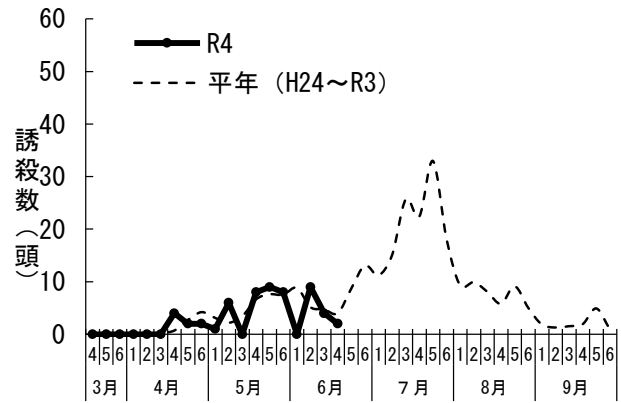


図2 軽米町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

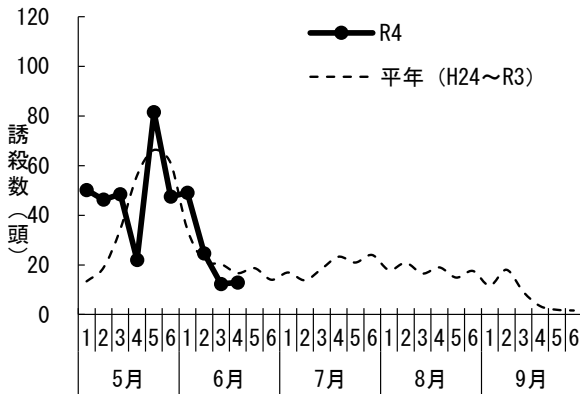


図3 岩手町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

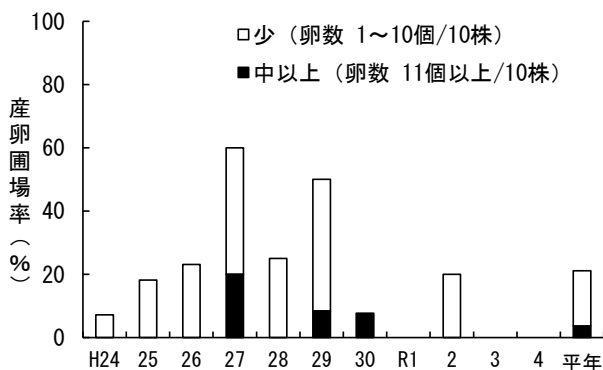


図4 コナガの産卵圃場率の年次推移（6月中旬）

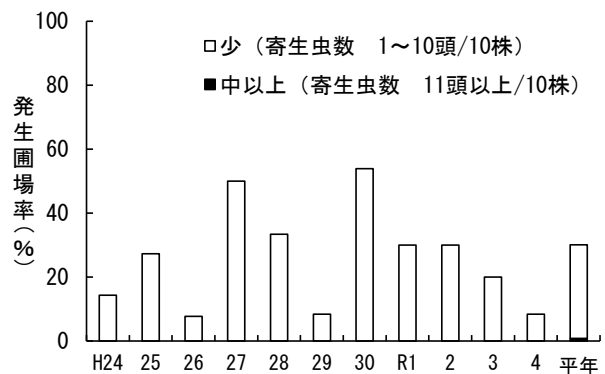


図5 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（6月中旬）

2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップによる越冬世代の誘殺は、6月は確認されなかった（図6）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年並に推移した（図7）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップによる越冬世代の誘殺数は、6月第1半旬から大きく増加し、6月第2半旬でピークが見られた（図8）。
- (4) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は8.3%（平年32.2%）であり、平年より低かった（図9）。

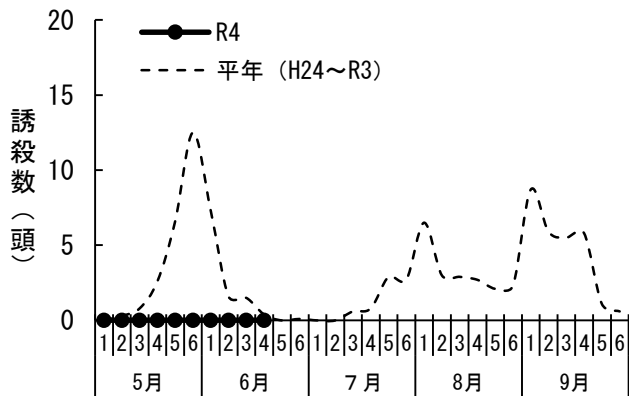


図6 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

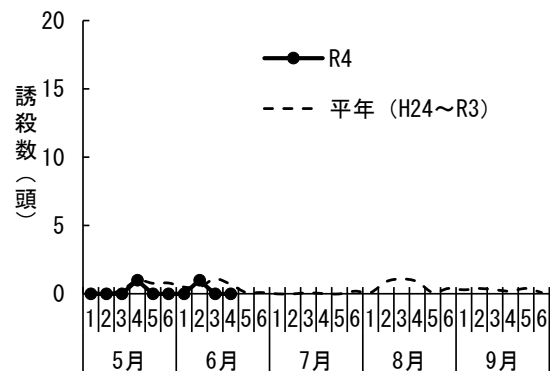


図7 軽米町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

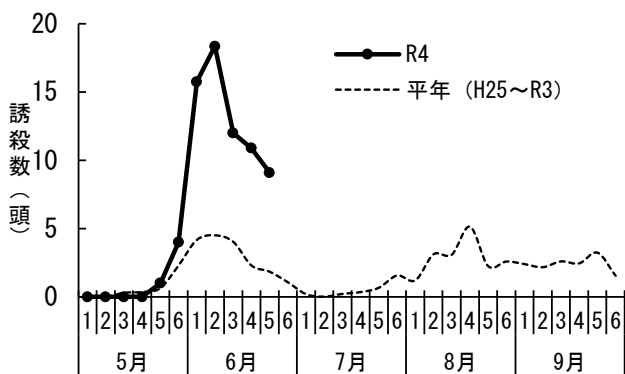


図8 岩手町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

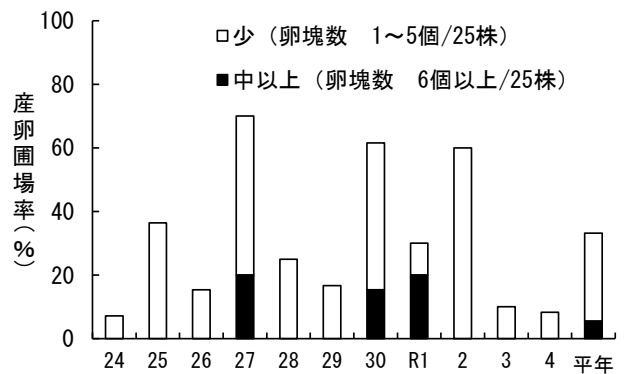


図9 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（6月中旬）

3 タマナギンウワバ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少なかった（図10）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、6月第1半旬にピークが見られた（図11）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや多かった（図12）。
- (4) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は25.0%（平年51.9%）で平年より少なかったが、幼虫の発生圃場率は25.0%（平年22.3%）で、平年並だった（図13、14）。

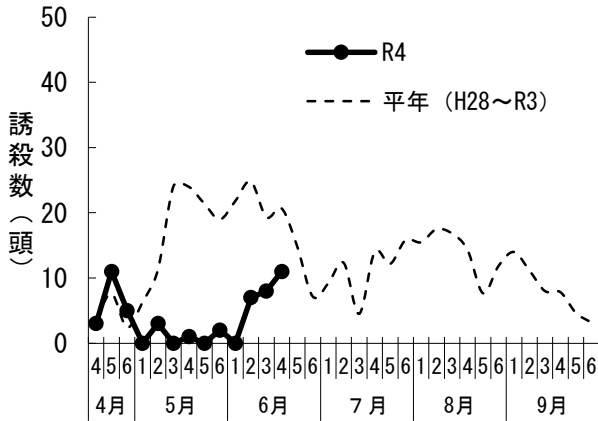


図10 基準圃場（北上市成田）におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

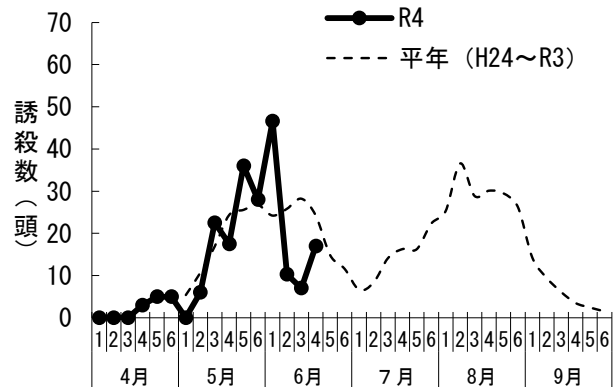


図11 軽米町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

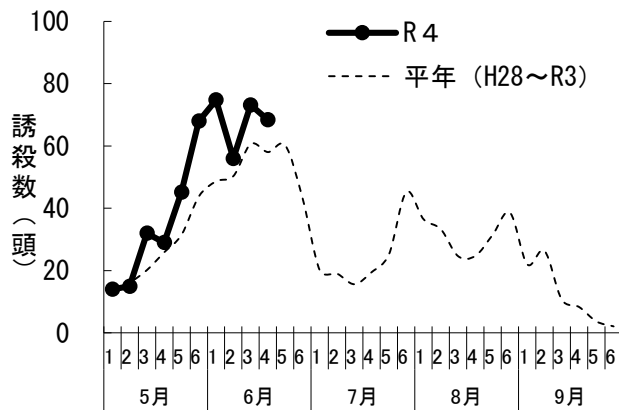


図12 岩手町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

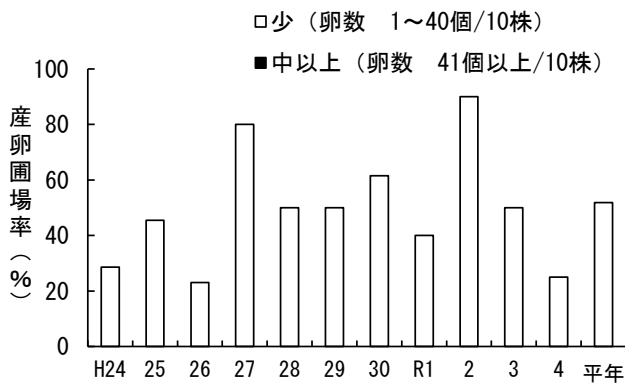


図13 タマナギンウワバ産卵圃場率の年次推移（6月中旬）

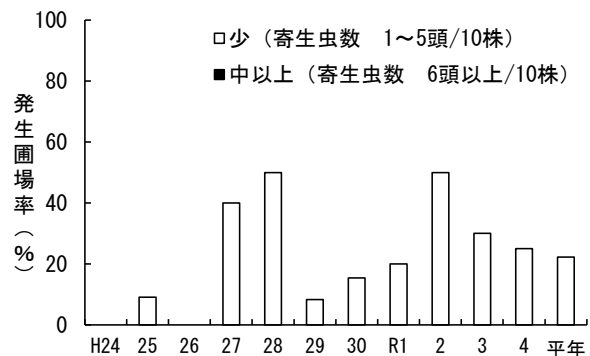


図14 タマナギンウワバ幼虫発生圃場率の年次推移（6月中旬）

4 モンシロチョウ

(1) 6月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は8.3%（平年4.2%）で、平年並だった（図15）。

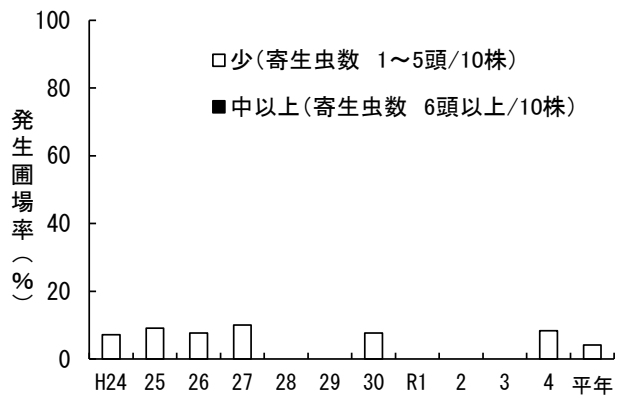


図15 モンシロチョウ幼虫発生圃場率の年次推移
(6月中旬)

農作物病害虫発生現況情報（6月） ねぎ編

1 さび病

- (1) 6月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（図1）。
- (2) 現地では、一部圃場で発生が確認されている。

2 べと病

- (1) 6月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（図2）。
- (2) 現地では、一部圃場で発生が確認されている。

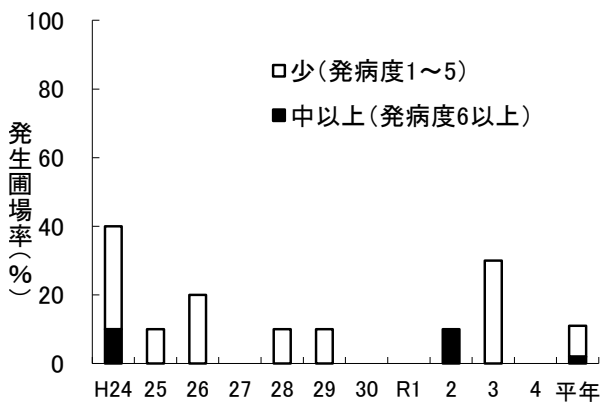


図1 さび病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

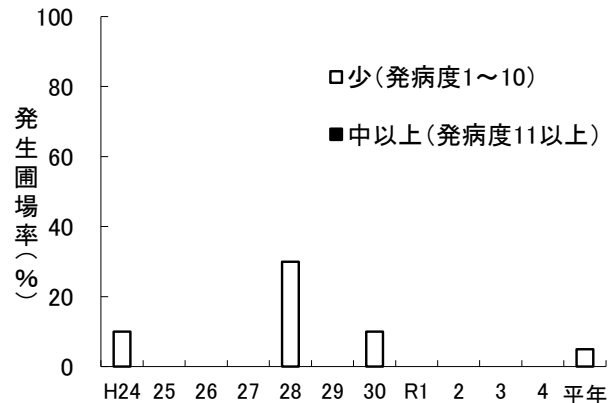


図2 べと病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

3 黒斑病・葉枯病

- (1) 6月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（図3）。

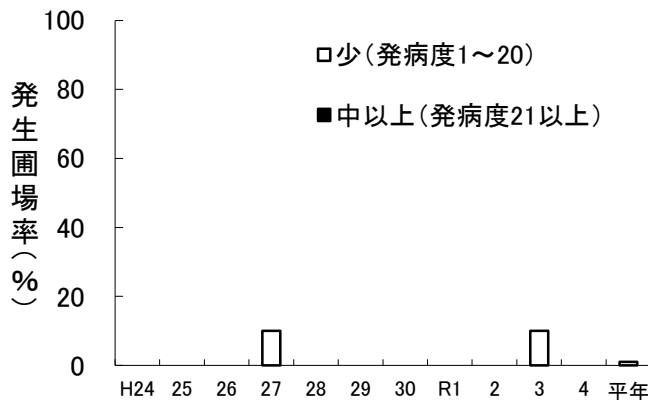


図3 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

4 ネギコガ

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は40.0%（平年40.4%）であり、平年並だった（図4）。

(2) 時期別の被害葉率は、6月上旬・下旬ともに平年より低かった（図5）。

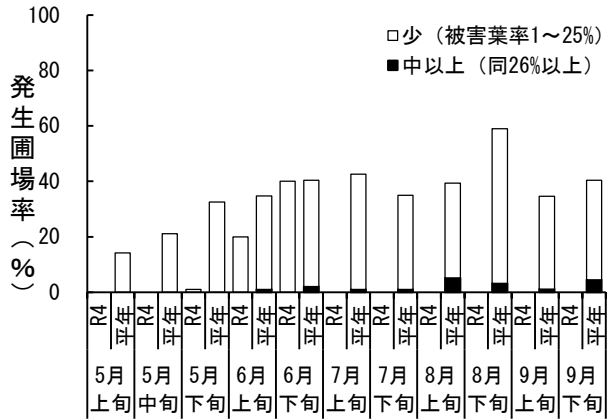


図4 ネギコガの発生圃場率の時期別推移

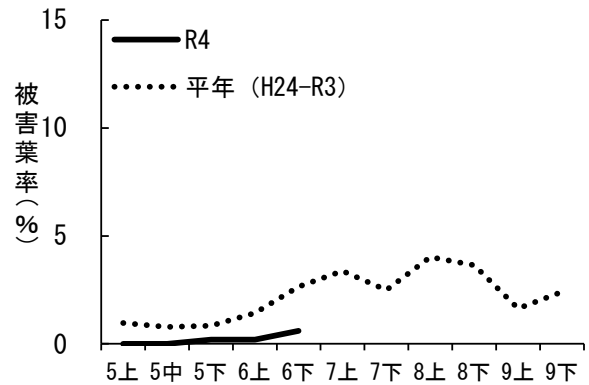


図5 ネギコガによる被害葉率の時期別推移

5 ネギハモグリバエ

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は10.0%（平年49.6%）で平年より低く、被害度中以上の圃場は確認されなかった（図6）。

(2) 時期別の被害度は、6月上旬・下旬ともに平年より低かった（図7）。

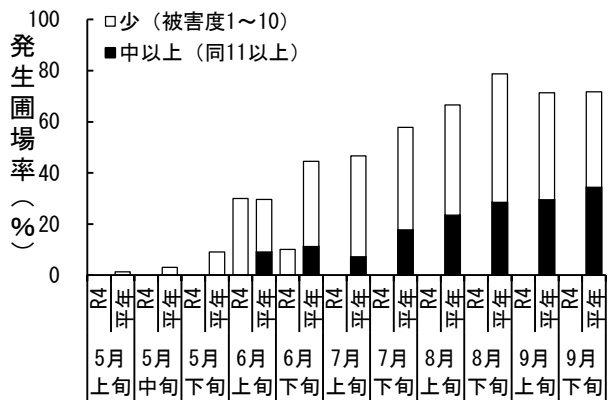


図6 ネギハモグリバエの発生圃場率の時期別推移

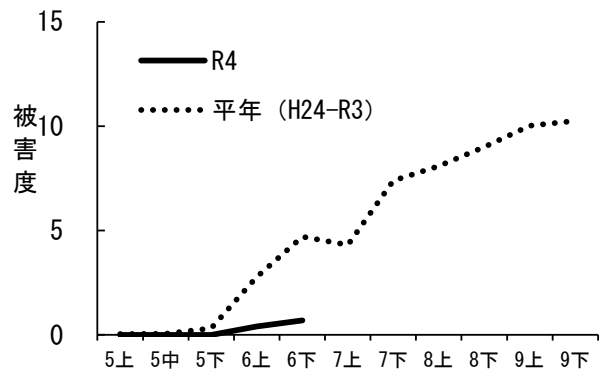


図7 ネギハモグリバエによる被害度の時期別推移

【被害度】調査株の被害程度を甚・多・中・少・無の5段階で評価し、次式により算出

$$\text{被害度} = \frac{(\text{甚の株数} \times 4 + \text{多の株数} \times 3 + \text{中の株数} \times 2 + \text{少の株数})}{(\text{調査株数} \times 4)} \times 100$$

6 ネギアザミウマ

- (1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0%（平年87.0%）で平年よりやや高かったが、被害度中以上の圃場率30.0%（平年44.7%）であり平年より低かった（図8）。
- (2) 時期別の被害度は、6月上旬は平年並だったが、6月下旬は平年よりやや低くなった（図9）。

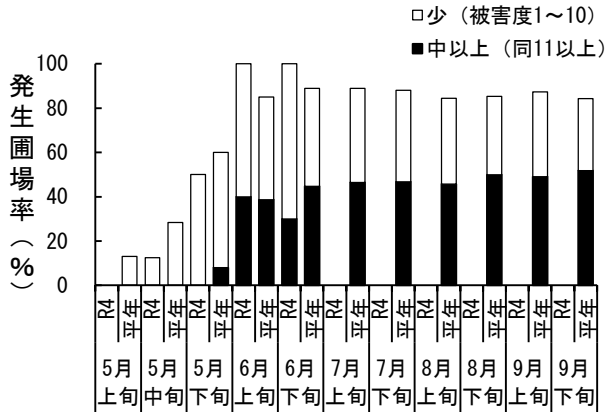


図8 ネギアザミウマの発生圃場率の時期別推移

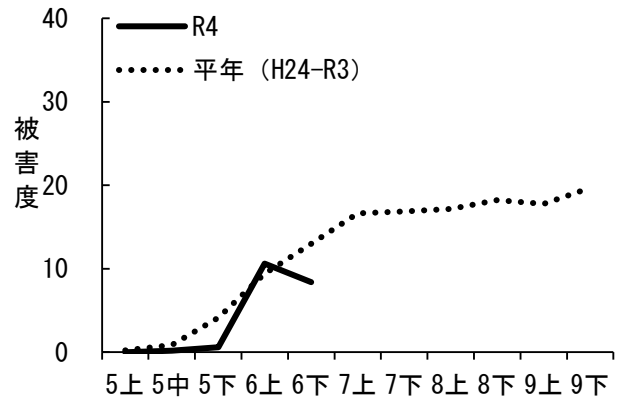


図9 ネギアザミウマによる被害度の時期別推移

農作物病害虫発生現況情報（6月）りんどう編

1 葉枯病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は8.3%（平年18.0%）で、平年より低かった（図1）。

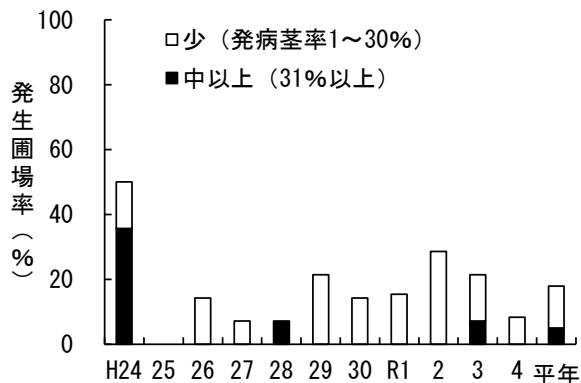


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

2 ハダニ類

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年：発生圃場率25.8%、図2）。

(2) 現地では、一部圃場で発生が確認されている。

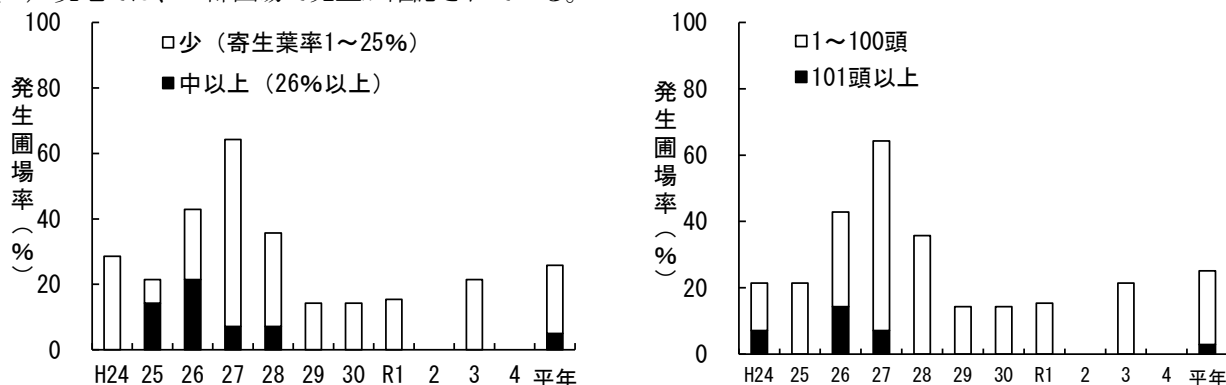


図2 ハダニ類の発生圃場率の年次推移（左：寄生葉率、右：寄生虫数/80葉中、6月下旬）

3 リンドウホソハマキ

(1) 6月下旬の巡回調査では、潜葉痕の発生圃場率は8.3%（平年24.3%）で平年より低く、生長部および茎部被害の発生圃場率は8.3%（平年10.9%）で平年並であった（図3）。

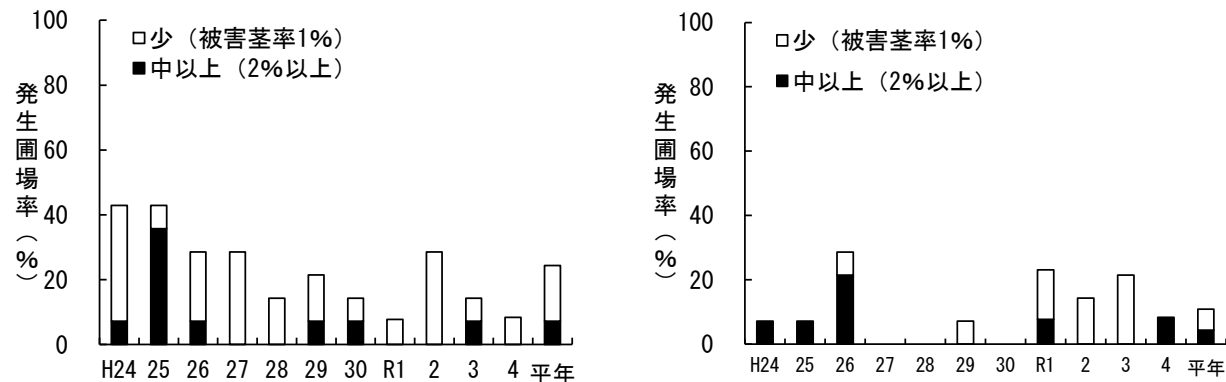


図3 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移（左：潜葉痕、右：生長部・茎部、6月下旬）